

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		管理者と職員は常に忌憚の無い意見を言える環境にある。今後も実践に向けて取り組みながら、共通理解を深めていけるよう意見交換をしていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		顔見知りになった方もいらっしゃるが、入居者が玄関前のベンチで日光浴をされている時に、犬の散歩などで通りがかった方々にお声を掛け、立ち寄ってもらい、大変喜ばれている。今後もこういう機会を多く設けていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		これからは小学生や近所の方だけでなく、保育園や中学生なども気軽に立ち寄れる様な催し物や活動をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの認知症ケアの講習会に地域住民も参加している。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果をふまえ、改善計画を作成し、取り組んでいる。		ありのままを自己評価し、自らの日々の取り組みを振り返る良い機会となっている。外部評価を参考にしながら、前向きに話し合いを重ね、陥りがちになっている点を改善して生きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた事項は全職員に報告し、現在取り組んでいる内容についても、推進会議時に報告し、意見をもらうようにしている。		運営推進会議での話し合いの内容を職員に報告し、地域にどのように受け入れられているのかを知りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と直接連携をとる必要性を見出さないままに過ごしている。		サービスの課題、改善点に気付いた時は、必要に応じ介護保険制度を入居者にとって有効的に活用していく為、市町村担当者と協議していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースがまだ出ていない為、職員は制度についての知識や理解が不十分である。		管理者まかせにせず、必要なケースが出てきたら、万全の支援が出来るよう「成年後見制度」や「地域福祉権利擁護事業」について、日頃から勉強していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けた取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には退所時のことも含め、分かり易い言葉で事業内容やケアについてなど、丁寧に説明している。不安な事、疑問な事については、納得していただけるまで時間をかけ説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心掛けている。又、その時々入居者の不安、意見等は会議等で話し合いをしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>毎月初めに、担当スタッフより現金受け払い報告書に入居者の様子や行事などについての手紙を添えて、ご家族に報告している。ご家族から、記名・捺印した確認書を返送していただいている。</p>	<p>ケアプラン作成時には入居者の変化や日々の様子をお知らせし、ご家族の意向をお聞きしている。入居者を共に支えているという安心感を持って頂ける様に取り組んでいきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事務室カウンターに意見箱を設置している。又、ご家族の面会時や電話の際には気軽に意見を伺い、会議等で検討し、支援に活かしている。</p>	<p>苦情はチャンスと受け止めている。今後も柔軟に受け止め、改善に繋げていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを積極的に図るようにしている。又、勉強会、講習会なども積極的に取り入れ、終了後、意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態や希望活動に合せたローテーションを組んでいる。又、その都度、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、ご家族の信頼関係や心のケアには馴染みの関係がとても重要な事である為、昨年、初めて各フロアの職員の異動が行われた。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルは整備されているが、適宜見直しを行うまでには至っていない。又、マニュアルの中にはホームの現状に即している物ばかりとは言い切れない。</p>	<p>ホームの現状に即した内容のマニュアル整備が出来るよう、努力していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で外部講師を迎えての研修会を開催し、多くの職員が受講できるようにしている。又、研修報告レポートを提出し、全職員が閲覧している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回～3回、県のグループホーム協議会での会合に管理者が参加しており、研修報告書などで掲示している。	今後、職員が参加していけるように働きかけていく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に職員の悩みやストレスを把握するように努めている。又、気軽に相談できる雰囲気作りをしている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている。又、資格取得に向けた支援も行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活習慣、ADL、馴染みのある人や場所、趣味、思いなどをよくお聞きし、本人の不安や意向を受け止める努力をしている。	言葉にならない思いに寄り添えるような、ゆったりとした雰囲気、時間であるように努力していきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの家族の苦労や経緯をよくお聞きし、ご家族の持つ不安や意向を受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、ご本人とご家族にとってどういう支援が必要なのかを十分に検討した上で、入居を決定している。状況に応じて、他のサービス利用を提案することもある。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ご本人やご家族に事前に入居するユニットや居室を見学に来てもらっている。職員は温かい雰囲気迎えられよう、他の入居者の心情にも配慮しながら、安心感を持ってもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。ご本人の思いに寄り添い、職員や入居者同士が共に支えあい、協働しながら和やかに生活出来る様に場面作りや声掛けをしている。		ご本人の持つ力を知り、発揮できるような関わりをもつ事で、支えあう関係を築いていきたい。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努めている。喜怒哀楽を共にし、一緒に笑ったり、時には一緒に考えたりしながら、協力関係を深めている。		情報交換をしながら、不安や不快を与えないように配慮している。気持ちの交流を図りながら、入居者を共に支えているという、信頼関係をより深めていきたい。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	ご家族、ご本人の思いや状況を見極めながら、よりよい関係が築いていけるように、行事に家族を誘ったり、来訪時には、皆で一緒にお茶を飲み、歓談するなど、和やかに交流できる為の支援をしている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	昔から利用している美容院に行き続けている入居者やこちらに来てから行くようになった馴染みの床屋さんがある入居者など、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	入居者同士の関係性について、情報を共有し、必要に応じ、職員が関わりを持ち、関係が上手くいくように配慮している。 毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持ち、一人ひとりの楽しいエピソードなどの話題を提供している。		場面に依りてではあるが、あまり干渉的に「ならず、入居者一人ひとりの持つ思いやりの心が発揮できるように、さりげなく関わっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも入居者と一緒に遊びに行ったりしている。又、ご家族からの相談にも乗ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情、行動などから、ご本人の思いを汲み取り、把握に努めている。把握が難しい場合は、家族や関係者から情報を得ている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人自身の語りや、家族の面会の折、入居者を交えてお茶を飲みながら、家に居た時の過ごし方、どのように家族に関わって来たかなどを聴いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを知り、その人らしさや、心身状態の把握に努めている。		
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせる様、本人や家族の要望を聴き、反映させるようにしている。会議等では、職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		ケアの中から得た色々な気付きをそのままにせず、活かせるように話し合いや意見交換の場を増やしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員の情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に必ず見直しをしている。又、状態が変化した場合は終了する前であっても検討見直しをし、現状に即した新しい計画を作成している。		今後も、現状をよく把握し、より必要な支援が出来るように、職員やご家族と情報交換をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間で情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画を見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅での生活が限界になった時、新しい環境ではあるが、入居者が安心して自分らしく、楽しく暮らしていけるような環境作りに取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して地域での暮らしを続けられる様、消防署や民生委員と意見交換する機会を設けている。本人と地域との様々な接点を見出し、福祉施設、小学校、ボランティアへの協力を呼びかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状況や希望に応じて、訪問理美容サービスやボランティアを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加することにより、関係が強化され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療にも来てもらっている。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に限らず、認知症の人の医療に熱心な医師に受診し、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			ご本人、ご家族の了承を得て、訪問診療、居宅療養管理指導を取り入れ、医師や看護師からの指導、助言による健康管理を始めました。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人に関する情報を医療機関に提供し、職員は頻回に見舞いに行くようにしている。又、ご家族とも情報交換しながら、回復状況など、速やかな退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人やご家族の意向と事業所が対応し得るケアについて話し合い、説明を行っている。支援方法、方針をチームで話し合い、支援に繋げている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向と事業所が対応し得るケアについて話し合い、説明を行っている。支援方法、方針をチームで話し合い、支援に繋げている。ご家族の意向「本人にとってどうあったら一番良いのか」ホーム内での勉強会などでは常に取り上げ、話し合いがなされているが、かかりつけ医との話し合いまでとは至っていない。		今後は重度化や終末期に向けて、かかりつけ医とも十分に話し合い、方針の統一を図っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援の内容について情報提供していると共に、馴染みの職員が機会を作って訪問し、住み替え時のダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>これからも外食は続けていきたい。又、入居者と一緒に植えた野菜を使って、一緒に調理したり、味わったりして楽しんでいきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>週に1回、土曜日、「お酒の日」を設けている。好きな飲み物を選んでいただき、「乾杯」をしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターン、時間帯を把握し、トイレで失敗無く排泄出来る様支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと入浴して頂ける様、時間帯、回数は本人の希望を取り入れている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望時を考慮し、休息がとれるよう支援している。寝付けない時は添い寝、温かい飲み物を出し、穏やかで安心していただけるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。近くの公園等、散歩やピクニックへと出かけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の買い物の際、レジや店員さんに、直接入居者の手からお金を渡してもらう事もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、心身の活性に繋がる様、日常的に日光浴、散歩、ドライブ等に出かけている。外食、お弁当を持って近くの公園に出かけ、季節感を肌で感じてもらえるよう、支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の方が行きたいと思う所を聞き、職員が計画を立て、行っている。		昨年に引き続き個別対応で、白根の凧合戦にお連れする予定。 今後も、個別の支援を充実させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人などに電話しやすい声がけや、雰囲気作りを行い、入居者が誕生日や母の日などでプレゼントを贈っていただいた時は、声掛けで、御礼の電話を掛けて頂くよう支援している。		寂しい時などに、家族と電話で会話できるよう、ケアプランに位置づけている方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来易い雰囲気作りを心掛けている。訪問時間などは定めておらず、いつでも訪ねて頂けるような配慮をしている。時には状況を見て、入居者全員と面会に来られた家族と、お茶やおやつをいただきながらお話しする機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が身体的、精神的拘束感を感じる事のないような生活がおくれるよう、ケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けることはなく、センサーを忘れずつけておくように心掛けている。又、玄関を出入りする際は、職員同士、声を掛け合うようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で必ず過ごし、さり気なく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間毎に入居者の様子を確認すると共に、起きられた時にすぐに対応できるよう、居場所を工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、個々の状態に合わせ、職員が管理する場合もあれば、入居者本人で管理を任せる物もある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間の情報の共有、見守り、気配りを基本とし、事故防止に取り組んでいるが、発生してしまった場合は、事故報告書などを作成し、今後の対策、予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成したり、本を置くなどしている。又、看護師を招いて講習会、勉強会を開催している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、出火場所、昼夜の設定などを変え、入居者も交え、避難訓練を行っている。地域での避難訓練や消防署立会いの訓練にも積極的に参加し、自治会長さんなどにも協力をお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態など、月1回、必ず報告(手紙)。面会時には今の状態、起こり得るリスクについて説明し、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握している。食欲、顔色、様子に変化ある時は、バイタルチェックを行い記録している。変化などあった時は職員間で共有し、早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的、副作用、用法や用量を把握し、理解に努めている。入居者の状態の経過や変化などに関する事は記録し、受診先の医師、看護職員との連携を図るようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、乳製品(ヤクルト・ヨーグルト)をとり入れ、身体を動かす機会を適度に設けて自然排便できるように、取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯の手入れの声かけを行い、必要に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄介助や歯磨きの声かけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。 毎日食事内容や材料をノートに記録し、入居者の感想を書きとめておく。定期的に管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内で起こり得る感染症のマニュアルを作成し、学習して予防対策に努めている。 入居者、職員は、インフルエンザの予防接種を受けている。 食中毒、予防のため、毎日、調理場器具の消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水周りは毎日消毒を行う。 新鮮な食材を使うよう、賞味期限の確認をこまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にベンチや花を植えてある。 家族や近隣に対し、きちんと挨拶するように心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングの壁に季節ごとのディスプレイや花、写真を飾るなど、居心地良く、楽しく過ごせる様工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などに長椅子などを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士で寛げるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや日用品など、使い慣れた物を居室に持ち込んでいただき、写真等思い出の品や馴染みの物を身近に置き、入居者が居心地良く過ごせる様に配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇を使用しており、居室の状態により窓を開け、空気の入替えを行っている。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、悪臭が出ないよう工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなど、転倒しない様に、手すり、滑り止めなどして、安全確保の配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態、状況に合わせて、目印を工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑のスペースを確保し、入居者から野菜を育てて頂き、収穫し、料理に使用している。玄関先には、花を植えたり、日光浴出来る様にベンチを置いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人ひとりの価値観を尊重し、“その人らしい”生活の実現に向けての努力。